



和漢朗詠集全部一冊

貞書年号名印有

山口素堂信章不持  
名刺了

古筆了悦

春

上春

老學集卷之四

逐吹潛開不待芳菲之候迎春  
乍變將希雨露之恩

池凍東頭風度解窻梅北面雪封寒  
柳無氣力條先動池有波文冰盡開

今日不知誰計會春風春水一時來

夜向殘更寒磬盡春生香火曉爐燃

神心已定  
春風吹柳  
春水涵空  
春雪封梅  
春風吹柳  
春水涵空  
春雪封梅

早春

三編拾月卷之四

氷消田地蘆葦短春八枝條柳眼低  
先遣和風報消息續教啼鳥說來由  
東岸西岸之柳遲速不同南枝  
北枝之梅開落已異

紫塵嬾蕨人拳手碧玉寒蘆葦脫囊  
氣齊風梳新柳髮冰消浪洗舊苔鬚

木下川柳梅庵

庭增氣色晴砂綠林變容輝宿雪紅

いそぎよく色もぬはひのさういひは  
しそえいほるまきしそりみたるは  
山風くるとはふくちりもかえしつらよよ  
うちつるの波やいづかのちのはな  
見たりをそぞろのぬりぬよるの  
まじりぬはるもぬるはあつなま  
みわさせばはやあまのちり  
まやうせむちりぬあつなま

春興

今戸柳庵

花下忘歸因美景樽前勸醉是春風

野草芳菲紅錦地遊絲繚亂碧羅天

竒酒家、花處、莫空管領上陽春

山桃復野桃日曝紅錦之幅門柳

復岸柳風宛麴塵之絲

著野屠敷紅錦繡當天遊織碧羅綾

林中花錦時開落天外遊絲或有無

笙竒夜月家、思詩酒春風處、情

春夜  
春夜月家思詩酒春風處情  
春夜月家思詩酒春風處情  
春夜月家思詩酒春風處情

春夜

春夜月家思詩酒春風處情

背燭共憐深夜月踏花同惜少年春

もろふ乃の葉の爲りてあやかしむたのむ  
いぬあをてつるるぬあまてからぬ

子日 付右菜

時西唐古竺藏

倚松樹以摩腰習風霜之難犯也

和菜養而啜口期氣味之克調

倚松根以摩腰千年之翠滿手折

梅花而插頭二月之雪落衣

ぬのひししむたぬぬのむらさきのひめ  
ひししむたぬぬのむらさきのひめ

ぬのひまらるのくししむたぬぬのむらさきのひめ  
ぬのひまらるのくししむたぬぬのむらさきのひめ

ぬのひまらるのくししむたぬぬのむらさきのひめ  
ぬのひまらるのくししむたぬぬのむらさきのひめ

右菜

野中茅菜世事推之善心爐下和

養俗人屬之菜指

かき香以爲

あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ  
あまの川わがふしむじかかぬをうかむ

三月三日 付桃

同日唐不老翁

春來遍是桃花水不辨仙源何處尋  
春之暮月之三朝天醉于花桃李之

盛也我君一日之澤萬機之餘曲水  
雖遙遺塵雖絕書巴字而知地勢  
思魏文以翫風流蓋志之所之謹  
獻少序云爾

煙霞遠近應同戶桃李淺深似勸盃  
水成巴字初三日源起周年後幾霜

花乃春正惟苑

礙石遮來心竊待牽流遍過乎先遮

桃

夜雨偷濕曾波之眼新嬌曉風緩吹

未言之口先咲

*みえらよこころのかたむかしとみえしゆのこころ*  
*さかひやしくこころいふにやむしきうしゆ*

暮春

花曆菊移歲

拂水柳花千萬點隔樓鶯舌兩三聲

低翅沙鷗潮落曉亂絲野馬草深春

人無更少時湏惜年不常春酒莫空

劉伯若知今日好應言此處不言何

*いふはきこめすのこころさかひおのこころと*  
*むすべのこころはよるもたすくしゆ*

三月盡

和香庵松蔭翁



留春不駐春歸人寂寞  
 賦風不定風起花蕭索

竹院君閑消永日  
 花亭我醉送殘春  
 惆悵春歸笛不得  
 紫藤花下漸黃昏  
 送春不用動舟車  
 唯別殘鶯與落花  
 若使韶光知我意  
 今宵旅宿在詩家

萬田松里藏

留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲

留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲  
 留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲  
 留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲  
 留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲  
 留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲  
 留春不用關城固  
 花落隨風鳥入雲

閏三月

新樹園書和苑

今年閏在春三月  
 剗看金陵二月花



會異氣而終混龍吟魚躍之伴曉啼  
燕姬之袖暫收猜繚亂於舊拍周郎  
之簪頻動願間關於新花

新路如今穿宿雪舊巢為後屬春雲

西樓月落花間曲中殿燈殘竹裏音

あづこめ ぬれ ちと たら せむ けり しよる  
あひるの せむ けり けり けり けり けり

関西香作芭蕉

あづこめ ぬれ ちと たら せむ けり しよる  
あひるの せむ けり けり けり けり けり  
あひるの せむ けり けり けり けり けり  
あひるの せむ けり けり けり けり けり

霞

や組 根 作 芭

霞光曙後殷於火草色晴来嬾似煙

鑽沙草只二分許跨樹霞繞半殿餘

きこのあぢき せむ けり けり けり けり けり  
かきとら せむ けり けり けり けり けり

さうらのかさねんあまめねやうらうら  
よしののふくしゆまふもほほ  
らさしひらきあまのさうらあま  
さうらのさうらあまのさうらあま

雨

或垂花下潜增墨子之悲時舞鬢眉間  
暗動藩郎之思

月桂室抄卷

長樂鐘聲花外盡龍池柳色雨中深

養得自為花父母洗來寧辨藥君臣

花新闌日初陽潤鳥老歸時薄暮陰

斜脚暖風先扇處暗聲朝日未晴程

さうらのかさねんあまめねやうらうら  
よしののふくしゆまふもほほ  
らさしひらきあまのさうらあま  
さうらのさうらあまのさうらあま

梅

南村予言

花乃亭正唯多

白片落梅浮澗水黃梢新柳出城墻

梅花帶雪飛琴上柳色和煙入酒中

漸薰臘雪新封裏偷縱春風未扇先

五嶺蒼蒼雲往來但憐大庾万株梅

誰言春色從東到露暖南枝花始開

青絲綠出陶門柳白玉裝成庾嶺梅

いしこころのさかしらてふくしわらわき

いしこころのさかしらてふくしわらわき

わらわきいしこころのさかしらてふくし

わらわきいしこころのさかしらてふくし

あやかしらいしこころのさかしらてふくし

紅梅

梅含雞舌無紅氣江弄瓊花帶碧文

淺紅鮮娟仙方之雪媿色西派香芬郁



雲敬手紅鏡扶棊日春嬾黃珠嬾柳風  
私宅迎晴庭月暗陸池逐日水煙深  
潭心月淡交枝挂岸口風來混葉蘋  
あをやあいのいせりかくるりしを  
みしはあそふはちうはひふなり  
まの柳乃まゆみのこもけりるるふた  
いふのころあそふあそふりやう

花 付落花

陸奥堂詩吟

花明上莞輕軒馳九陌之塵猿叫  
空山斜月瑩千巖散之路

池色溶々藍染水花光焰々火燒春

遙見人家花便入不論貴賤與親疎

瑩日瑩風高低千顆萬顆之玉染枝

染浪表裏一入再入之紅

花の心暗

誰謂水無心濃艷臨兮波變色誰  
謂花不語輕漾激兮影動脣

欲謂之水則漢女施粉之鏡清瑩

欲謂之花亦蜀人濯文之錦采爛

織自何絲唯暮雨裁無定樣任春風

花飛如錦幾濃粧織者春風未疊箱

作招氏詩

始識春風機上巧非唯織色織芬芳

眼貧蜀郡裁殘錦耳快秦城調盡箏

昔中... 暮雨... 春風... 機上... 巧... 非... 唯... 織... 色... 織... 芬... 芳...  
眼貧蜀郡裁殘錦耳快秦城調盡箏  
昔中... 暮雨... 春風... 機上... 巧... 非... 唯... 織... 色... 織... 芬... 芳...  
...

落花

...



落花不語空辭樹 流水無心自入池  
 朝踏落花相伴出 暮隨飛鳥一時歸  
 春花面、闌入酣暢之筵 曉鶯聲、  
 豫參講誦之座

まの春心唯鶯

落花狼藉風狂後 啼鳥龍鐘雨打時  
 離閣鳳翅馮舞下樓娃 袖顧階翻

さしこころはちるもあはれ 下風をさしこむる  
 つらきつらき心もあはれ 雨をたたくとき  
 しのびのこもるもあはれ 袖をひくとき  
 去の春もさしこむるもあはれ 心もあはれ

躑躅

橘こ新一成蔭

晚葉尚閑紅躑躅 秋房初結白芙蓉  
 夜遊人欲尋來把 寒食家應折得薦

おもしろいほるもあはれ 秋のふたつ  
 いまはつはつ地もあはれ 春のふたつ

款冬

竹立庵抄年終

點著雌黃天有意款冬誤綻暮春風  
書窓有卷相收拾詔紙無文未奉行

かきしほはあつく神あひた川母かきしほのたえあ  
いまもやれしくらむをうらむさこの花  
わりやうきかたをええりゆきさくをうらむ  
ちりりのこころちりしききりこころのこころ

藤

悵望慈恩三月盡紫藤花落鳥關

紫藤露底殘花色翠竹煙中暮鳥聲

あめさく乃浦そとほへにいりふりかちあひを  
かきしほあはれつむじりあひかきしほを  
とれまねのあひかきしほあひかきしほあひも  
あひかきしほあひかきしほあひかきしほあひ

夏

更衣

南軒書九舟書

背壁燈殘經宿焰開箱衣帶隔年香  
生衣欲待家人著宿讓當招邑老酣

あつた乃こほみふえりし袂のたしきれハ  
たほもりうもきふあもあひうた

首夏

雷中夏風物

甕頭竹葉經春熟階底薔薇入夏開  
苔生石面輕衣短荷出池心小蓋疎

わづやうしけりこころいやくとゆとあさけしむ  
あひさみなるこころいやくとあさけしむ

夏夜

風吹枯木晴天雨月照平沙夏夜霜  
風生竹夜窓間卧月照松時臺上行

空夜窓閑螢度後深更軒白月明初  
あひ乃木ととほぬこころいやくとあさけしむ  
あひさみなるこころいやくとあさけしむ

時夜深松在露

あはれなるものありては  
いづれかしらぬは  
あはれなるものありては  
いづれかしらぬは  
あはれなるものありては  
いづれかしらぬは

端午

随時新白葛露

有時當戸危身立無意故園任脚行

あはれなるものありては  
いづれかしらぬは  
あはれなるものありては  
いづれかしらぬは  
あはれなるものありては  
いづれかしらぬは

竹亭陰合偏宜夏水檻風涼不待秋

あはれなるものありては  
いづれかしらぬは  
あはれなるものありては  
いづれかしらぬは  
あはれなるものありては  
いづれかしらぬは

花橘

知是落途足露

盧橘子低山雨重拚摘葉戰水風涼  
枝繫金鈴春雨後花薰紫麝飄風程

さしよふのたふももちやうねれ多うもさう  
むののをもれ神もかかすも  
あはむむのたふももちやうねれ多うもさう  
あはむむのたふももちやうねれ多うもさう

蓮

風荷老葉蕭條綠水蒼殘花寂寞紅  
葉居影翻當砌月花開香散入簾風  
煙閑翠扇清風曉水泛紅衣白露秋

暁日庵遊記

岸竹枝低應鳥宿潭荷葉動是魚游  
緣何更覓吳山曲便是我君座下花  
經為題目佛為眼知汝花中植善根  
あはむむのたふももちやうねれ多うもさう  
あはむむのたふももちやうねれ多うもさう

郭公

香齋園如於

一聲山鳥曙雲外萬點水螢秋草中

さしほもあやむおのほははるあまのむあもささるは  
ちのこもあやむささるははるあまのむあもささるは  
多やあやむささるははるあまのむあもささるは  
いまもあやむささるははるあまのむあもささるは  
小夜もあやむささるははるあまのむあもささるは  
はるあまのむあもささるははるあまのむあもささるは

螢

四 廿 蔵

螢火亂飛秋已近  
辰星早沒夜初長  
薰葭水暗螢知夜  
揚柳風高鴈送秋

明々仍在誰追  
月光於屋上皓々  
不消豈積雪片於  
床頭

山經卷裏疑過岫  
海賦篇中似宿流  
くさあやむささるははるあまのむあもささるは  
うさあやむささるははるあまのむあもささるは  
はるあまのむあもささるははるあまのむあもささるは  
あまのむあもささるははるあまのむあもささるは

蟬

牛王閣出雲蔵

遲々号春日玉秋瓦暖号温泉溢嬾々  
号秋風山蟬鳴号宮樹紅

千峯鳥路含梅雨五月蟬聲送夏秋

鳥下綠蕪秦苑靜蟬鳴黃葉漢宮秋

今年異例腸先斷不是蟬悲客意悲  
歲去歲來聽不變莫言秋後遂為空

秋後遂為空

たのしみはあつたのこすゝきのこめくのこめく  
あつたのこめくあつたのこめくあつたのこめく  
あつたのこめくあつたのこめくあつたのこめく  
あつたのこめくあつたのこめくあつたのこめく

扇

盛夏夏不消雪終年無盡風引秋生

手裡藏月入懷中

年年未一掃

不期夜漏初分後唯翫春風未到前

あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川

かろお降雲

# 秋

## 立秋

蕭颯涼風與衰鬢誰教斗會一時秋

雜漸散間秋色少鯉常趨處晚聲微

あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川  
あまの川うらやまの川

## 早秋

其日暮之晚

但喜暑随三伏去不知秋送二毛来

槐花雨潤新秋地桐葉風涼欲夜天



炎景剝殘衣尚重  
晚涼潛到簟先  
知  
あまのつゆもあつひつゆもあつねとよみのぬき  
らふもよみのつゆもあつねとよみのぬき

七夕

憶得少年長之巧  
竹竿頭上願絲多  
二星適逢未綉別  
緒依依之恨在  
夜將明頻驚涼風  
颯之聲

合港陽と金糸

露應別淚珠空落  
雲是殘粧髻未成  
風從昨夜聲彌怨  
露及明朝淚不禁  
去衣曳浪霞應濕  
行燭浸流月欲銷  
詞託微波雖且遣  
意期片月欲為媒  
あまのつゆもあつひつゆもあつねとよみのぬき  
らふもよみのつゆもあつねとよみのぬき  
あひつゆもあつひつゆもあつねとよみのぬき

心... 秋興

秋興

不可得... 秋興

林間煖酒燒紅葉石上題詩拂綠苔

楚思淅沆雲水冷商聲清脆管絃秋

大底四時心愴苦就中腸斷是秋天

物色自堪傷客意宜將愁字作秋心

由来感思在秋天多被當時節物牽

第一傷心何處索竹風鳴葉月明前

蜀茶漸忘浮花味楚練新傳擣雪聲

秋... 乃... 風... 秋晚

秋晚

秋... 乃... 風... 秋晚

相思夕上松臺立  
蠶思蟬聲滿耳秋  
望山幽月猶藏影  
聽砌飛泉轉倍聲  
おのろくやふりあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

秋夜

物生系先翁

秋夜長々々無眠  
天不明耿々殘燈  
背壁影蕭々暗雨  
打窓聲

遅々鐘漏初長夜  
耿々星河欲曙天  
鷺子樓中霜月夜  
秋來只為一人長  
萸草露深人定後  
終宵雲盡月明前

蕪陵州裏孤舟夢  
榆柳燈窗頭萬里心

萬那望月先翁

こゝろは山をしのび  
かたむねむ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

八月十五夜

付月

月正印為山卷

秦甸之一千餘里凜冽冰鋪漢家  
之世六宮澄之粉飾

織錦機中已辨相思之字擣衣砧  
上俄添怨別之聲

三五夜中新月色二千里外故人心

嵩山表裏千重雪洛水高低兩顆珠  
十二迴中無勝於此夕之好千萬里  
外各爭於吾家之光

雙雀庵水齋卷

碧浪金波三五初秋風斗會似空虛  
自疑荷葉凝霜早人導蘆花過雨餘  
岸白還迷松上鶴潭融可算深中魚

瑤池便是尋常号此夜清明玉不如  
金膏一滴秋風露玉速三更冷漢雲  
揚貴妃歸唐帝思李夫人去漢皇情  
水のゆるみよふ月ありとをかりそものた  
こよふいぢぢあゝあぢぢあうたうらるる

月

太白星孤月影

誰人隴外久征戎何處庭前新別離  
秋水漲來船去速夜雲收盡月行遲  
不醉黔中爭去得摩圍山月正蒼蒼  
天山不辨何年雪合浦應迷舊日珠  
欲和豐嶺鐘聲不其奈草真鶴驚何  
鄉淚數行征戎客掉竒一曲釣漁翁  
こゝのゆるみよふ月ありとをかりそものた  
こよふいぢぢあゝあぢぢあうたうらるる

源川平野民翁

志しんくちめいんけうちりりしんくちんし  
わよんくちみけいんあまのゆれ月  
よふのゆれんをけおもふんくちんし  
月しんくちんしんあまのゆれんし

松郷男李知翁

九日付菊

鷺知社日辭巢去菊為重陽冒雨閑  
採故事於漢武則赤萸插宮人之衣  
尋舊跡於魏文亦黃花助鼓祖之術

先三遲号吹其花如曉星之轉河漢  
引十分号湯其彩疑秋霜之迴洛川  
谷水洗花汲下流而得上壽者世餘  
家地脉和味冷日精駐年顏者五百箇歲  
わんちんくちんしんしんしんしんしんしんしん  
しんしんしんしんしんしんしんしんしんしん

菊

百進舎巻巻花

霜蓬老鬢賈二今白露菊新花一半  
不是花中偏愛菊此花開後更無花  
嵐陰欲暮契松栢之後凋秋景早移  
嘲芝蘭之光敗

子草爲孤松花

鄜縣村閣皆潤屋陶家兒子不垂堂  
蘭苑自慙為俗骨樞離不信有長生

蘭蕙苑嵐摧然後蓬萊洞月照霜中  
ひちかたの如き雲のふもゆるごとくさへ  
あまのちりともえあまのれもある  
あまのちりともえあまのれもある  
あまのちりともえあまのれもある

菊古筆見吟翁

九月盡

綴以壻函為固難留蕭瑟於雲衢  
綴令孟賁而追何遮夾籟於風境

顯目綴隨禪客之秋拖與太應  
文拳按纏白駒景詞海艤舟紅葉聲  
屋下西ひー 籠をくればかひはくも  
まゝあがれまゝもまゝとひるあまゝも  
くまゝめゆく秋のあまゝも  
このまゝゆひ乃ちまゝもまゝも

女郎花

晚花老子信花

花色如魚粟俗呼為女郎聞名戲

欲契偕老恐惡衰翁首似霜

おとあふー 花あふる雪あふるよやまらや  
あやちりくー 花あふる雪あふる  
たひんあふー 花あふる雪あふる  
いんあふー 花あふる雪あふる

萩

不求庵後小庵

曉露鹿鳴花始發百般琴打一時情

秋のあふる雪あふるよやまらや  
あやちりくー 花あふる雪あふる



うの浜の心もふたへもみれども秋もくれば  
おもしろくもなほしきしきもけしきもあつた  
魂の命もあつたのあつたもあつたのあつた  
麻のまもあつたのあつたのあつた

蘭

花の本西階

前頭更有蕭條物老菊衰蘭三四叢  
扶桑豈無影乎浮雲掩而忽昏兼蘭  
豈不芳乎秋風吹而先敗

凝如漢女顏施粉滴似較人眼泣珠  
曲驚楚客秋弦韻夢斷慈姬曉枕重  
如くもあつたのあつたのあつたのあつた  
のあつたのあつたのあつたのあつた

槿

花の本中階

松樹千年終是朽槿花一日自為榮  
来而不留薤隴有拂農之露去而

不返種離無投暮之花

たぢけうのめせしつしつあせ  
ふめうしつしつあせしつあせ  
あせしつあせしつあせしつあせ  
あせしつあせしつあせしつあせ

水日庵為丸翁

### 前栽

多見栽花悦目傳先時豫養待閑遊  
自吾閑寂家僮倦春樹春栽秋草秋

閑思看汝花紅日正是當吾鬢白年  
曾非種處思元亮為是花時供世尊

ちんごしつしつあせしつあせ  
いせしつあせしつあせしつあせ  
しつあせしつあせしつあせしつあせ  
しつあせしつあせしつあせしつあせ

### 紅葉 村落葉

やせしつあせ

不堪紅葉青苔地亦是涼風暮雨天

黃纈纈林寒有葉碧瑠璃水淨無風  
洞中清淺瑠璃水庭上蕭疎錦繡林  
外物獨醒松澗色餘波合力錦江聲

七  
心  
一  
物  
獨  
醒  
松  
澗  
色  
餘  
波  
合  
力  
錦  
江  
聲

落葉

葉家新詩句

三秋而宮漏正長空階雨滴萬里而  
鄉園何在落葉窓深

秋庭不拂携藤杖閑踏梧桐黃葉行  
城柳宮槐漫搖落秋悲不至貴人心  
梧楸影中一聲之曲空灑鷓鴣背  
上數片之紅纔殘

倚紅樓詩話

推蘓往反杖穿朱貫臣之衣陰逸  
遊履踏葛稚仙之藥

道服氏之詩也

隨嵐落葉含蕭瑟澗石飛泉弄雅琴

逐夜光多吳苑月每朝聲少漢林風

わんごうのハミミを窓ふらるるかほりき  
やふれあこやうを物さるるさぬり  
かりんあ月志らるるももふか  
そり此この世ふらるるふらるる

見ゆ人 意あつめちるるわんごうの  
こみもあつめちるるわんごうの

鴈 付歸鴈

萬里入南去三春鴈北飛不知何

歲月得與汝同歸

招中卷一函

尋陽江色潮添滿彭蠡秋聲鴈引來  
四九朶山粧雨色兩三行應點雲聲

虛弓難避未拋疑於上弦之月懸  
奔箭易迷猶成誤於下流之水急  
鷹飛碧落書青紙隼擊霜林破錦機  
碧玉粧筍斜立柱青苔色紙數行書  
雲衣范菽羈中贈風櫓蕭湘浪上舟  
金風（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）  
（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）

琴毛唐月兔茶

### 歸鷹

山腰歸鷹斜牽帶水面新虹未展巾  
そふ（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）  
（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）（あつた）

### 虫

切之暗窓下啜之深草裏秋天思  
婦心雨夜幽入耳

紫花園月兔茶

伊藤氏我好翁

霜草欲枯虫思苦  
風枝未定鳥栖難  
床嫌短脚釜聲鬧  
壁獸空心竅孔穿  
山館雨時鳴自暗  
野亭風處撼猶寒  
叢邊怨遠風聞暗  
壁底吟幽月色寒  
（下）（も）（あ）（と）（み）（を）（お）（し）（の）（と）（き）（を）（と）  
あ（一）（か）（ゆ）（の）（こ）（の）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）

鹿

蒼苔路滑僧歸寺  
紅葉聲乾鹿在林  
暗遣食苹身色變  
更隨加草德風来

（さ）（や）（ま）（の）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）  
（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）（き）（を）（と）

露  
花の玉正唯翁

可憐九月初二夜露似真珠月似弓

露滴蘭蓑寒玉白風衝松葉雅琴清

さきかゝればあはれめりたりのくわいこもて望ま  
ふめりやとらんるもあめおひやうしーらうた

霧

現在庵露心霧

竹霧曉籠衙額月頻風暗送過江春

雖愁夕霧埋人枕猶愛朝雲出馬鞍

たふさくあつむらさきももこもてあはれめりたりの  
そらめれ秋思やうはれえらるる  
あつむらさきはいらあつむらさきはいら  
さきかゝればあはれめりたりのくわいこもて望ま

擣衣

擣小歌

八月九月正長夜千聲萬聲無了時

北斗星前橫旅鷹南樓月下擣寒衣

擣衣曉愁困月冷裁將秋寄塞雲寒

裁出還迷長短製衣邊愁定不首腰圍  
風底香飛雙袖琴月前拚怨兩眉低  
年々別思驚鳥秋應夜々幽聲到曉鷄  
かきくし流もくしのこゝろをいふは六月のころ也  
まゝに物思ふ人をいふもいふにふくみ

冬

初冬

一日唐竹二翁

十月江南天氣好可憐冬景似春花  
誰家思婦秋擣帛月苦風凄砧杵悲  
四時零落三冬減萬物詭詭道半凋  
床上卷收青竹簟匣中開出白綿衣  
神字のりもつるはゆすもいふに  
いふは冬をいふに思ふにふくみ

冬夜



一盞寒燈雲外夜數盃溫耐雪中春  
年光自向燈前盡客思唯從枕上生  
たもへいりねいりりるまゆげそふの華は  
りりかちをいしむしちもいりりるまゆげ

歲暮

小築齋主湖翁

寒流帶月澄如鏡夕吹和霜利似刀  
風雲易向人前暮歲月難從老底還

抱くもいりりるまゆげそふの華は  
りりかちをいしむしちもいりりるまゆげ

爐火

後唐書令孫

黃醅綠醕迎冬熟絳帳紅爐逐夜開  
看無野馬聽無鶯臘裏風光被火迎  
此火應鑽花樹取對來終日有春情  
多時綴醉鶯花下近日那離獸炭邊



之樓月明千里

子也組久吉翁

銀河沙漲三千界梅嶺花開一萬株

雪似鵝毛非散亂人披鶴氅立徘徊

或逐風不返如振羣鶴之毛亦當晴

猶疑綴衆狐之腋

翅似得群栖浦鶴心應棄興掉舟人

立於庭上頭為鶴坐在爐邊手不龜

班女圍中秋扇色楚王臺上夜琴聲

みやこもめもつらさるるをみるもこの世の  
やうにさかしまかひりてけりてか  
見らるるかたの山の雪はゆりし  
ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし  
雪のあはれをよみてみよとてかたよるる  
ゆりしゆりしゆりしゆりしゆりしゆりし

氷付春氷

吉原群白翁

氷封水面聞無浪雪點林頭見有花  
霜妨鶴淚寒無露水結孤疑薄有冰  
おちそくく月のかかりのこころは  
かげりて水地まのいささか不なる

### 春氷

源 小 路 花

氷銷見水多於地雪霽望山盡入樓  
氷消漢主應疑霸雪盡梁王不召牧

胡塞誰能全使節潭沱還恐失臣忠

あまのこころはなごころはなごころはな  
あまのこころはなごころはなごころはな

### 散

麈尾采斲聲脆龍領珠投顆寒

みやうめあまのこころはなごころはな  
まのこころはなごころはなごころはな

### 佛名

香村氏馬泉苑

17

21

7

17

Handwritten scribble on the left edge of the page.

Handwritten scribble on the right edge of the page.

Handwritten scribble at the bottom center of the page.

Handwritten scribble at the bottom center of the page.

